

第1弾 日野宿内まち歩き会 7月24日(土)

参加者 子ども 人 大人 人 計39名

渡辺生子 (日野図書館分館長) : 今日は「日野宿子ども発見隊」ということで、このまちの「ここ何だろう?」と思ったところを調べていく、まちの発見をしてくださいね。で、みんなこれを持った? お父さんもみんな持った? 先生も持ったね。

おいで、お名前は? そうか、広瀬さんもそうか。
おはようございます。これと、記念のバッジ。
じゃあおねえちゃん、バッジ、お父さんもお母さんも。
みんなバッジと紙をもらったかな? 持ってない子いないね?

じゃあ今日は、日頃みんな、このまちを歩いていて
「何だろう、これ?」「このお地蔵さん、何であるんだ?」
って不思議に思うことをお兄さんがつくってくれたんだけど
でも、もっと「これなあに」というのがあったらどんどん出して。

で、今日は何のためにやっているかということ、本をつくるの。子どもの。このまちの歴史の本をつくりますから、これからずっとこういう「これは何だろう」とか思うことはどんどん皆で出し合ってやっていきますのでね。今日は初めてのイベントになります。

今日の先生を紹介します。今日案内してくださるのは加地さん。あのね、お地蔵さんのことなら何でも知っていて、ニックネームは「かじぞうさん」です。何でも聞いてください。加地さん、よろしくお願いします。

加地勝 : 「かじぞうさん」です。こちらは写真家の井上さん。日野のまちのことならどんなことでも写真に撮りまくっている。井上さんね。

井上博司 : おはようございます。



日野図書館に集合

渡辺 : じゃあ今日は、みんな気をつけてね。

特に暑いからお水ね。水筒を持っていたら必ず水を飲んだりして、お昼までね。途中で大昌寺とか、あと大家で休憩をとりますけどね。休憩以外にもいつも水、それから疲れたら言ってください。大丈夫かな。

井上 : 気持ち悪くなったり、いやだなと思ったらすぐ言ってください。それじゃないと倒れるからね。倒れると、途中で病院があるか

ら。

加地：できるだけ日影とか、木陰を探して歩きますけれど、本当にこまめに、遠慮なく水を飲んでくださいね。それからちょっと気分が悪くなったら休む。

一応今日の予定は日野宿を歩くということになっておりますけれど、できるだけ皆さんが普段歩かない道を歩いてみようかなと思っています。それでとりあえず日野宿というのはどんなところかということで、隣の交流館の2階にジオラマがありますので、それを見ていただくと。それから日野宿の端っこである「東の地蔵」へ行く。それから有山さんのところから裏に回りまして、用水を頼りに一小、大昌寺、宝泉寺と、それから「西の地蔵」まで行きます。それから戻って八坂神社。それからその前の大屋さんね。志村さんのお宅。これが150年ぐらいの家なんですよ。そのところから裏へ回りまして「トンガラシ地蔵」。それから普門寺さん。それで図書館へ戻るとい、大体3時間を予定しておりますけれど、途中で大昌寺さん、宝泉寺さんで少し休みがとれます。それから志村さんのところに館長の方で冷たい飲み物を用意して、そこで待っています。というような形で、何とか皆さん精一杯頑張ってください。何でも、それから途中で「これは何だ」ということがあったら聞いてください。本当にこまめに水は飲んでください。お願いします。

渡辺：それで、なぜなぞの答えは、終わったら配りますのでね。でも、ところどころちゃんとしっかり聞いていれば答えはできるはずですよ。ちゃんと聞いてください。じゃ、出発しますので。

渡部康弘（日野図書館）：すみません、今日はちょっとビデオを回します。宣伝とか何かでちょっと使ってもらったら困るよ、写してもらったら困るよという方はいらっしゃいますかね。一応取材ではないんですけども、宣伝等で使わせていただきたいと思っておりますので、どうぞ御了承ください。

井上：出発する前に、みんな問題の1番を見て。

【日野図書館】

渡辺：クイズ（「ひのまちなぞQ」：巻末）の問題1番。はい、ここです。「この図書館の建物は」と書いてありますね。

井上：わかる人いる？

不明（子ども）：はい、わかる。市役所だった。

渡辺：はい、ほかには？ この日野図書館は、図書館の前は何だったんだろう？

不明（子ども）：こっちに学校が、前、僕は「まちたんけん」で、前はここに学校があったって先生に言われたから、ここは学校です。

井上：ええとね、正解はね、郵便局。

渡辺：郵便局でした。

井上：向こうに郵便局があるのを知っている？ 大きいのが。あれができる前に、ここに郵便局があった。で、この郵便局ができる前はそこの本陣のところにあったの。

渡辺：ここは郵便局の建物をそのままをね。

井上：すごく古い建物だから地震がくると倒れちゃうの。

渡辺：ちょっと危ないかな。

井上：じゃあ行きますか。

渡辺：じゃ、出発します。



日野図書館

【日野宿交流館】

不明（子ども）：日野宿本陣は何年前につくられた？

井上：日野宿本陣ってどれ？ 知ってる？ あのでかい家だよ。

加地：誰か答え。日野宿本陣ってわかる？ わからないか。

不明（子ども）：どこかはわかった。

井上：あそこに大きな昔の家があるでしょう。あれのことを日野宿本陣っていうんだよ。で、誰か答えは。

不明（子ども）：150年前。

井上：150 年前、何で？

不明（子ども）：1500 年前は何かすごい前すぎるし、15 年前は何か新しすぎるから。

井上：ほかに。

加地：僕は、何年前だと思う？

不明（子ども）：150 年前。

渡辺：150 年前か、すごい。

井上：正解は 150 年前です。

不明（子ども）：はい、ピンポン。

渡辺：150 年前だよ、わかった？ 150 年前、何時代？ 平安時代？

不明（子ども）：平安じゃないよ、江戸時代。

加地：1500 年前というと弥生時代じゃない。

井上：じゃあ、後で調べておいてね。

【日野宿交流館】

井上：この写真（通路に展示中のパノラマ写真：次頁掲載）ね。一小の人。

不明（子ども）：はい。

渡辺：一小。一小の周り何もないよね。

井上：仲田小学校の人いる？

渡辺：仲田小の人？ 仲田小はあるのかな、ここに。

不明（子ども）：ない。



日野宿交流館 1 階

渡辺：仲田小はいつできたの？

加地：ここだ、この辺。

渡辺：何になってる？ 仲田小。ここは、この辺が仲田小。

清板シゲ李：そのときから桑園だったの？

井上：いや、もうこのときは桑園じゃなかった。

渡辺：このときは桑園。

加地：昭和 30 年ね。

井上：東光寺小学校の人います？ 東光寺小学校ね。この辺。

不明（子ども）：ここで切れてる。

清板：だけどもまだできてないですね、このときにね。

井上：まだ何も無いね。

井上：日野第二？ 二小か。二小はこの道を行くでしょう、で、その坂を上がるでしょう。ずっと市役所のほうへ行けたんだけど、それをぐわーんと下がるからこっちのほう。

渡辺：だけども一小、大昌寺、八坂は同じ場所に建っているよね。あと全然違うけどね。

不明（子ども）：でも木がなくなっちゃった。

渡辺：一小と大昌寺と八坂はずっとこの場所にありました。

不明（子ども）：田んぼばかり。

井上：八坂神社の森がこれで、今の森がここだから。

不明（子ども）：森が小さくなっちゃったんですね。

井上：そうだね。いなげやさんがここでしょう。それからいなげやさんの隣は何だっけ。



大昌寺山から日野宿を望む 昭和 30 年前後 志村章氏撮影

清板：いなげやさんは 46 年か 7 年ぐらいにできたんだね。

渡辺：ああそうか。じゃあこのずっとあとだね。

井上：じゃあ上で。

渡辺：はい、上に行きます。

不明（子ども）：エレベータで行くのか。

【日野宿交流館 2 階展示場】

井上：（日野宿のジオラマを前にして）誰か本陣っていうのを（ボタン）押してくれる？

不明（子ども）：押した。

井上：押した？ 何かいっぱい押してるだろう。今押しているところがあるでしょう。電気ついているところがあるでしょう。そこがさっきいたところで、赤いのね。それで今その正面にいるのね。ここから。

新村拓朗：赤いのが本陣。向かいの建物です。

井上：それで、この模型の中で、真ん中に道がぶーんって通っているでしょう。これが今のその下の黒い道ね。

新村：ここはどうだったんですかね。

廣田美穂：でもちゃんとした瓦の大きな建物ですね。

新村：ああ、本当、そうですね。ほかの建物とはちょっと違いますね。

井上：これは江戸時代のだから、400年ぐらい前から道は変わってないんだ、全然。で、この模型は多分150年ぐらい前のまちの様子だから、今同じところにあるのは、今誰か八坂神社をつけたでしょう、パチッって、青いのを。その隣だ、それだ。そこが八坂神社で、お祭りやるところね。日野小学校ってある。

廣田：日野小学校はどこでしょう。

渡辺：見えないか、ごめんね。

井上：誰か日野小学校探して。

加地：もしよかったら、はい、どうぞ。



井上：あ、ないや。小学校ないんだ、

日野宿のジオラマ見学

この頃。今青いのを押した人。それじゃない。それだ。今押したやつだ。それじゃない、その隣かな。それじゃない。それだ。ここも今電気ついてるでしょう。

廣田：その青は何ですか。

井上：そこが今の中央公民館があるところだね。で、日野第一小学校は初めそこにあつたんだ。第一小学校ね。

不明（子ども）：今青いのがついている。

不明（子ども）：第一か。日野第二はどこにあるの？

不明：イチョウの木ってこのときあつたんですか？ イチョウの木。

井上：第二はない。これからみんなでこっちまで行って、それからあっちの山の端まで行くから。

不明（子ども）：じゃあ日野第二はある？

井上：日野第二、ない。今度第二のほうをやろうか。

不明：よかったね、やってくれる。

井上：一緒に行くよ。ほかに。ちょっとみんな、模型もいいけど、まあこんなところもあるんだって。ぐるっと回って見たつもりになって。

【日野宿交流館 1 階】

井上：日野図書館は郵便局だったよね。問題にはないんだけど、この建物は交流館だよね。何だったと思う？

不明（子ども）：はい、銀行。

井上：何で？

不明（子ども）：だって何か、金庫があるって。

井上：どこに金庫がある？

不明（子ども）：金庫があるって、先生がいった。

井上：これだよ。

渡辺：そう、ここは八王子信用金庫で、金庫。そのときの。

井上：これ、金庫のままなの。だからここに入って閉じ込めちゃうと出て来れない。

渡辺：もう二度と出られないかな。

井上：これが金庫の鍵のあとです。だからここにお金がいっぱいあったの。

渡辺：幾ら入るのかね。

加地：今はね。だからこの中に段をつくって。

井上：今はもう取っちゃったんだけど、扉はね。これが、この内側のこれが。壁もすごく厚いの。

不明（子ども）：扉をギーってやって開いちゃったらそこから盗まれちゃう。

不明（子ども）：何でお金がないの？

井上：今は銀行じゃないじゃん。

不明（子ども）：じゃあ何で銀行だからってお金をためて。

渡辺：みんな、金庫の中入ってみた？

【東の地蔵】

井上：はい、もうちょっと前。

加地：もうちょっと前に集まってください。じゃあちょっと暑い中、簡単に説明します。

ちょうどその高木さんの建物の後ろ、そこに昔西明寺というお寺があったんですね。その跡なんですけど、そこには今お地蔵さんが祠の中に一つあるんです。これを通称「東の地蔵」、または「福地蔵」と呼んでいますけど、ただ、台石を見ますと明治のものですね。ちょっと新しいんですけど、これを「東の地蔵」。これが宿（しゅく）の入り口の守り神。仏さんに守り神というのはおかしいけれど、まあ守り本尊。それから最後に行きます「西の地蔵」、「坂下地蔵」に、これはまたクエスチョンになっていますね。あれですけど、ここに地蔵さんがいます。大体昔からこういった宿場町だとか、それから部落だとかというのは、それぞれの村境、部落境にお地蔵さんとか道祖神というものを置きまして、そこから疫病神が入ってこないというような形の、祈りの、祈願を込めてそういったものを置いていると。日野宿も同じようなものをつくって、これは地蔵神、子どもたちには難しいかな。地蔵さんが人々の暮らしを守ってくれる、こんなところから地蔵さんを信仰するわけです。



もう一つついでですから、高木さんの建物の裏側になりますかね。そこが今話題になっております日野煉瓦。これの工場があった場所ですね。ただ工場そのものははっきり言いまして2年ちょっと。いわゆる今の日野駅、中央線を誘致するために多摩川に鉄橋をつくったわけです。

その鉄橋用のレンガとしてつくりまして、それができましたらそれではい、ということで廃業しました。ですからわずか2、3年の命だったんですけど、それでも結構大量のレンガをつくって いますので。ここの後ろに煉瓦工場があったということは非常に、我々にとっても興味が尽きないですよ。ここの名主さん宅が庄屋さんですか、それからの方ですね。こういった方がお金を出し合っつけてつくっています。

井上：問題4番。3番はこれから。4番。誰か読んで。

不明（子ども）：「日野は甲州街道の宿場町でした。東の地蔵からある場所までが町でした。そこはどこ？」

井上：考えて。これが「東の地蔵」っていうんだ。

渡辺：「東の地蔵」ね。ここから日野宿が始まります。

不明（子ども）：一番向こうの屋根のあるところ。

井上：旗が立っているでしょう。もっとこっちへ来てごらん。あそこに旗が立っているでしょう。屋根が付いている。

渡辺：あの小さいおうちになっていますね。あそこにあるのが「東の地蔵」。見えた？

井上：もっとよく見たい人は、もっとよく見たい人いる？ いないね。暑いからね。じゃあ行ってきて。



東の地蔵

渡辺：わかったね、「東の地蔵」。「東の地蔵」

から始まって日野宿は「西の地蔵」までね。何で地蔵があるかわかったよね。ここから、大事な人たちがいっぱい住んでいるから、病気になったりしないように祈願してお地蔵さんをつくりました。

清板：西はあそこの踏み切りのところ。ホーム

のところの下にあると思う。お地蔵さま。

渡辺：昔お寺があったからお墓もあるよね、そこにね。普通お墓って遠いところにあったのに、一応こども宿のはずれだったからね。西明寺というお寺があったね、ここにね。

井上：じゃあ行こうか。

渡辺：はい、行くよ。

新村：次、3番の場所に行きます。

渡辺：次は謎の3番に行くよ。

【日野銀行・有山董邸】

渡辺：小杉先生。

不明：昔何台かしかなかったのが、ここで、借りに行くんじゃないかって。

不明：昔はそうでしたよね、少ないときはね。お互いに借りてましたよね。

不明：昨日トトロを見ていたら「本家に行って電話を借りてこい」って。

井上：これはね、電話番号。みんなのうちって今、581とか587とか、電話が。本当は昔は電話を持っている人がすごく少なかったから、8だけでよかったんだね。電話がふえてくると81になって、82、83になって、それでも足りなくなると581、どんどん人がふえて番号がふえていった。だから最初は、もっと前は後ろの1120だけのときもあってね。で、8というのは日野市だよという番号なの。



旧日野銀行玄関

渡辺：有山さんが中に入ってくださいって。有山さんのおうちがね、ぜひ中に、明治天皇が休息した。

井上：皆さんいいですか、本陣があったでしょう。あそこの家と親戚なの。それで、ここの家が火事になった。だから向こうの家から、家をそのまま引っ張ってきて、それがまだ残っているから、それを見せてくれるんだって。

不明：すごい。

井上：お庭に行ってみましたかね。

井上：今有山さんのおうちの方が、特別にその家を見せてくれるって。みんなにことになってしまったんだけど。

不明：ラッキーだね。

不明（子ども）：どこへいくの。

井上：今これから行くの。で、入るときに、ここの門を入れていくんだけど、そこにでかい石が積んであるよね。この石はどこから持って来たと思う？ 多摩川だと思うでしょう。地面の下から出てきた。というのは、ここ河原だった。昔、川が流れていたから、掘ると大きい石が出てくるんです。これを。じゃあ行きましょう、特別公開。

確かに有山さんのうちで銀行をやっていたこともあるんですよ。ただ、日野銀行の位置とはちょっと違うんです。何だかよくわからない部分がある。

井上：すごい、有山さんのところを見られるのか。

新村：すごいですね。



上段の間

井上：入れるだけ入ってください。

新村：すごい立派なお庭ですね。

岡部（お譲さん）：ちょうど植木屋さんが入ったところだったので、よかったです。大変なので、草取りとかが。

新村：そうですね、手入れするだけでも。

岡部：そうなんですね。

井上：この家と本陣の家は親戚です。本陣から、本陣は佐藤さんですけど、佐藤さんの息子さんがこの家に養子というのになった。養子ってわかる人。この家で暮らすようになったのね。それでこの家が火事になっちゃったときに、向こうにいるお父さんがかわいそうがって、お前のところ火事で家がなくなっちゃっただろう、じゃあうちの半分持って行けと行って、そおっと引っ張って来ちゃったの。120年ほど前？ 130年ぐらい前？ この建物はもともと向こうにあった。

不明（子ども）：半分といっても。

井上：でかいですよ。半分じゃないよ、本陣の3分の1ぐらいかな。

渡辺：どうやって持って来たの？

井上：ここに用水があって、その後ろが全部畑だったから、畑のところに家を乗せる台をつくって引くんですよ。

渡辺：すごいよね。

井上：今この板を動かしたけど、この家は普段この家の人が今使っていて、見ることができないんだけど、今日はみんなのために特別に見ていいよということになった。

有山さん、どこにいるの？ 有山さん。

有山 董（ただし）：よく来たね。日野で

この家が一番あれかな、あれくらいかなというのはまずいかな。ただね、家だけあってもこの庭とね、これ京都から、この家を移築するときに、持ってくるときに、京都の庭師がつくったと聞いています。それで確かに、かわいそうだから持って行くというときに、明治天皇のこれがあるんですよ。明治天皇が来ましたという石が建っている。それから玄関のところにかごで玄関に入れる。その玄関も持って行けと言われたけど、うちは農家だからそんなものはいらなくて。農家というかね、そういうものはいらなくて。あんなもの持って来たら大変なことになっちゃうということで、まあそこにあってよかったでしょう。



有山 董さん

ということで、今日はみんなが来たから、ほら、いつもは1ヵ月ぐらい遅いんだけど、サルスベリが1ヵ月ぐらい早く咲いている。サルスベリっていうんだよ。夏に咲く花。誰か梅だなんて言ったな。まあゆっくりしてください。

渡辺：ありがとうございます。もう一つ聞いてね、大事なこと。今の有山さんのお父さんが、日本の図書館を、昔図書館というのはただ保存してあるだけで、本を見せてくれなかったの。今は自由に手にとって、みんな図書館に来てこの本借りるって借りてるよね。昔は図書館って、倉庫に隠してなかなか見ることはできなかったの。その図書館をみんなに開放して、市民のための図書館をつくらうと言ったのが有山さんなんです。お父さんです。そしてそういう、有山 崧（たかし）さんというんですけども、もう世界中のいろんな図書館を見に行き、日本でもこんな図書館をつくりたい。それを初めて日本で、自分の住んでいる日野市でそういう市民の図書館をつくらうじゃないかということで、日野市立図書館が日本でも初めてこういう、今はみんな当たり前で借りてるよね、本をね。その図書館をつくった人です。有山さん、有山 崧さんという方です。お父さんがそういう方だったんです。日本の図書館をつくった人だよと覚えておいてください。

不明（子ども）：今も生きてる？

井上：もう亡くなっちゃったよ。

加地：せっかく来ましたのでね、一つだけ覚えて行ってください。ここに張ってあるガラス、これは古いガラスなんです。今は機械で全部つくっていますけどね、こういう、

見ててゆがみというのがないんです。ところがこのガラスには、ちょっと横から見るとゆがみがあります。ということはハンドメイドなの。当時は今みたいに機械でガラスはできませんでしたから、それが手製でつくったのね。だから非常にまあ貴重ですね。こういうガラスは古い建物にしかありませんので。

井上：さてそれでは、実はこの家広いので、そこをずっと抜けていくと裏側の用水まで出ちゃいます。で、ここを抜けて行きます。はい、裏から抜けます。

加地：じゃあすみません。

井上：おーい、行くぞ。

【ある民家のお稲荷さん】

加地：土台がしっかりしているのが、大きな土台が付いている祠。それから家の、小さくつくっている祠、いっぱいあると思うんですけど、こういうのを見たことある？みんな。自分のうちにもあるか。ある人。おお、あるね、やっぱりね。ある。これはね、普通「屋敷神」というのですけれど、そのうちの土地を守る神様仏様。

これをまつてあるんです。日野にも、これはお稲荷さん。お稲荷さんというのは狐とつながって、そこにもあるけど、狐の彫り物があるよね。お稲荷さんそのものは狐じゃ

ないんだよ。狐はお稲荷さんという神様のお使い。それでみんなはそのお使いの狐に、油揚げだとかそういった狐が好きなものを差し上げるという形なんだね。だから、それでお稲荷さんというのはこういうふうになぜ家にあるかという、皆さん大体が農業をやっていた方、それから商売をやっている人、そういう人がこういう「屋敷神」というのをつくるんです。それで商売繁盛、それから豊作、お米が豊作になるようにということを祈って。



あるお宅のお稲荷さん

で、実はこういうふうにならなくても、家がかわっても、このお稲荷さんは動かさないと。そこから動かすことはないけれど、悪いことが起こるから、動かさないとということで大体その家のとこに残っています。

この日野宿にも昔の文献、資料ですと30年頃のものですけど、102ぐらいあるんですよ。今度もう一度調べ直しをしようというふうになっていますので、皆さんそのとき手伝ってくれるかな。お稲荷さんの場所だとか、それから何をまつているんだというのを調べたいと思います。そのときは皆さんにお願いするから手伝ってください。お願いします。

不明：2月の節分のときに、きれいな紙に字を書いておまつりしているのは、これ？

加地：初午の日とかそういうときによくそういう風習が残っているんですね。字が、それから同じような形では、どんど焼きというのは、やはりそのときに習字を書いて、それをまつって火が上がると、燃えることによって天高く上ると。そうすると「手が上がる」ということで、そういういろいろと風習があると思います。

井上：じゃあいいですか。行きます。何か質問があったらその本陣のところで。

【佐藤彦五郎新選組資料館前】

加地：(用水前に展示されている写真パネルを見て) 当時の、(下佐藤家) 裏門がこういう形であったんです。

小杉博司：あのマンションが上佐藤なんですね。下に門だけ残っていますよね。上佐藤と下佐藤、2軒の佐藤家が交代で日野宿の宿場の仕事をしたり、やっていたわけですよ。今のはもともとは脇本陣で。上佐藤の16代目の佐藤隼人君というのが一小にいたんですが、長男は隼人なんですよ。ですからみんな一小の子どもたち、いろんな、16代目とかねいてね、面白いですよ。



下佐藤家の裏門

【日野用水】



日野宿発見隊による用水清掃

加地：年に1回こういう人たちが、自分たちの川を愛そうという気持ちでやっていますから、皆さんもぜひ参加してもらいたいです。

不明：ああ、そうなんですか。何で川を。

谷享司：何となく落ちるんです。

渡辺：えっ、そんなに面白いの。

須永克彌：ごみを川に流さなきゃいいんです。ただそれだけのことです。

谷：これは多分旧の日野駅のレール。オークションにかけようか。でもどっちかというところ図書館に置いておいてほしいよ。結構旧駅を解体したときのレールをくれたんですよ、切って。そういうのを持っている家がいっぱいあったんですよ。今のレールに比べると幅が多分狭いんです。この幅が、レール幅が。ちょっと調べればわかると思うんだけど。

井上：いいですか。

須永：水準点。ここに一つありますけど、これの使い方をみんなに教えて。水準点を探して歩くとか、三角点を。

谷：地味。ものすごくわかりづらい。

不明（子ども）：ナンバー9って書いてある。

日野市。

山崎有実子：働いているように見えるけど何もしてないから。これだけ。



水準点

谷：昔の中央線の線路。レールの幅が違うから。これ寸法を全部測ってみて、今の線路のレールの幅と比べてみると小さいから。

不明（子ども）：だからこれが何個も並んでたの？

谷：ずっとつながっていたんだ。レールだから。

不明（子ども）：これ油がすごいよ。

落合等：すみません、ここに水準点があるんですけど、どこの自治体でも、例えば日野市ですか、ここは。日野市の場合は、これを幾つもいろんなところに打って、それで水準点からいろいろ測量して、全体がどのくらいあるとか、それでこれを基準点にするんですよ。だから、区画整理なんかをやるにも、これからB線を引くとすぐ座標に出てきちゃって、面積がわかるんです。だからすごく大事で、それでいじったりしちゃうとあとで困るので、皆さん見たら大事にしてください。抜けません。

加地：一今のところが標高が 70 メーターだったか、そのぐらいになるんです。という事は海水面からの高さ。だからこの高さが今一中とほぼ同じですから、海面から比べると 70 メーターのところにあるんです。そういうようなところを水準点にして、そこからじゃあ幾つ上がっているかというのを見るんです。だから小学校の中でも一番高いのは、私は程久保の高幡台のほうかなと思ったら、実は旭が丘小学校、あっちの方が高いのがわかった。標高で 130 メーターぐらいあるの。程久保で 120 メーターぐらい。

渡辺：ああ、そうなんだ。

谷：市役所が、海拔が 99 メートル。市の職員はそのくらい覚えてなきゃだめだよ。

須永：市役所へ行って、このナンバー 9 の水準点は何メーターですかというのを聞くとわかりますが。こういう点がそこらじゅうにあるんですよ。測量の基準になる。

井上：子どもたち、いいですか。何か聞きたいことがありますか。子ども。用水路で、こういうところでザリガニを取ったことがある人。ある？ 魚取ったことがある人。

不明（子ども）：はい。

井上：ザリガニや魚をとったことがある人は、大きくなったら掃除してくださいね。

不明：そうするといつまでもその魚がいるからね。掃除をすれば。

不明：そうよ、こんなに汚れちゃったら。

【大昌寺】

加地：顔がちょっとくずれちゃってるんですけど。ここで見てもらいたいの。下に 3 匹のお猿さんがいるわけ。これが「見ざる聞かざる言わざる」という、三猿ね。日光にもよくね、いるでしょう。この由来はまたじっくりとお話しますが、3 匹の猿が彫られているよということだけ覚えていてください。

渡辺：お猿さんなの？ それ。

不明（子ども）：三猿。

渡辺：ほんとだ、いるいる。



参道の石仏

不明：足元のところ。

加地：これは、あれからいくとね、ここで手が二つあって合掌している。それから1本、2本、3本、4本ある。だから6本の手がある、その仏さんから出ている。それからこれがね、実は蛇が体に巻きついてるんですね。それからよくあるのは髑髏を付けたネックレスをして

ると。それからここであれしているのは、よく言いますけど「邪鬼」という鬼を踏んづけているんですね。こちらの方に頭があって、ここがお尻。踏んづけている。これが、これは「聞かざる」かな。それから「言わざる」「見ざる」かな。という形になるんですね。これは俗に言う「庚申塔」というもので、この仏さんそのものは青面金剛（しょうこんごう）、青い顔の金剛さんということです。ここに日月が、これが月なんですね。三日月。これがまん丸ですから太陽さんという形ですね。それからその像によってはここから女の人、長い髪の人を「しょけら」というんですけど、そういう像もあります。非常に変化に富んでいますので、これだけやっていると面白いんです。では、お寺さんに入ろう。手を洗っていただいて。

加地：ですから、いわゆる閻魔大王がその罰を決めるわけですよ。これは地藏さんがその代わりになっているということですから、多少、少しでもいいことをしていれば助けてくれる余地があるよというところもあるんですね。だから実は十王像になっているわけです。いわゆる地獄にはまだその12の地獄があると。そういったところにそれぞれお地藏さんがいるというようなことですね。それで守り神。だから地獄の話をしてしますと尽きないですけど。もうすごい、いわゆる人間の500年が1日になる。そういうぐらいの時間の感覚なんですよ。それで100年間、向こうの100年間ですから、こっちで言うと5万年も、そのぐらい一つの地獄の中で苦しまなきゃいけないという。それですぐ救い出されればいいんだけど、次の、まだその下に、どんだんどんどん悪くなって、で、一つずつ上がってくるというようなことを言ってますけどね。



大昌寺本堂

不明：地獄の世界にもあるんでしょうかね。何と言うんでしょう、場所のランクとい

うか。

加地：罪により、その人生により、人間でいいますと、罪によってそのランクがあるんですね。針の山へ行くのもいれば、いわゆる火責めでトロトロに溶かされるのもいると。それが、トロトロに溶かされればなくなるじゃないかと思うんだけど、またそこで再生しちゃうんですね。

不明：でまた次の苦しみに行かなければ。こういうのは人間の想像なのか、それとも語り継がれてどんどん広がって。

加地：語り継がれてるんですね。やはり仏教の中でね、いかに悪いことをしたらこういう苦しみを受けるんだよということで、どんどんどんどん厳しくなるわけですよ。そういう絵巻というのもたくさんあるんですね。これは実は閻魔堂っていうのがあるんですけど、そこにも飾ってあります。実は十幅なけりゃいかんのだけ九幅しかないんです。消滅しちゃってるんですけど、例えばその九幅の絵は非常に、色彩画を使っていますので、なかなか見るあれがあります。今日行って、いつ御開帳になるかわからない。

不明：本当に貴重ですね。

井上：何に見える？

不明（子ども）：龍に見える。

加地：龍ですね。

井上：加地さん、一旦こっちへ出て、こっちへ行って、そうすると回れます。

加地：そうですね。

井上：ここは暑いですから出発します。一旦こっちの山門にもう一回出て、それから左です。

加地：この壁の説明は終わったんですか。じゃあ。

井上：皆さんいいですか。進みますけども、お寺の方にお礼を言います。

渡辺：こちらの杉浦さん。今日はどうもありがとうございました。

杉浦（おばあちゃん）：お気をつけて。

渡辺：今日は、日野市のお盆なので、和尚さんは檀家さんを回ったり忙しいのでいらっしゃいませんけれども、どうも本当にありがとうございました。

一同：ありがとうございました。

渡辺：行きましょう。

【甲州街道のあいの道】

不明（子ども）：2番？

井上：じゃあ誰か、答。

不明（子ども）：甲州街道。

不明：違うよ。



あいの道

渡辺：はい、7番読んで。

加地：1番が「忍者が使った」、はい。おじちゃんは「忍者が使った」。そうだよな。「車が来ない安全な道」。

不明（子ども）：はい。

渡辺：それも当たりだよな。

不明：今の時代はそれが正解ですね。

井上：そうなんだ。今これ、家が建っているでしょう。大体これ、みんな畑だったんです。で、ここら辺の家というのは、家があって後ろがずっと畑があったの。細長くて。そうすると、畑ばかりだと、こっちは道は古いんですが、こっちから向こうへ行くときに畑の中を歩いていくのはちょっとしんどい。だけどそれじゃ困るので、家と家の間にこの細い道をつくってすぐ行けるように、何本かこういう道をつくったの。ここを歩いて行くと、こういう道が結構あるんです。

加地：それでね、昔の道というのは、これ歩道の形になっちゃったけど、本来だったらこんなものだったな。その下水からこっちで、このぐらいの道しでしかなかった。

井上：でね、道に色が付いているんですが、色の名前が付いている。灰色と黒とあるね。

不明（子ども）：白？

井上：なんとか道って呼んでいるんだ。この帽子の色です。「赤道」（あかみち）っていう。

不明（子ども）：暑そう。

加地：これは「赤道」というんですが、これは役所の法的な地図に赤く塗られています。みんなが共同で利用する道のことなんですけどね、「赤道」と。ですから本当にこんなもので、今は何か門ができたりしてますけど、前は家がぎりぎり開いていまして、この玄関の前、店の前を歩いて、「こんにちは」と言いながら歩いたりするんです。本当にこんなもんですよ。

井上：で、これは大人の人なんですけど、これの道のおかげで区画整理ができないんです。4メートル幅に広げられますので、家も建て替えられる。

井上：ここのことです。どなたか答。石は投げない。

渡辺：答え、はい。

不明（子ども）：命を大事にしてもらうためだから。

渡辺：いい答えですね。

井上：ほかに。

不明（子ども）：ザリガニをとるため。

井上：まあ、ほとんどそれ。

不明（子ども）：魚をとるときは、魚たちが元気でいられるために用水をきれいにする。

井上：ほかに。今ごみを拾った人。それ、捨てといて。ごみでしょう、ティッシュでしょ。

不明（子ども）：違うよ。



完成なった親水広場

山田ゆみ：こっち側に何かごみ入れの、オレンジ色の、だいたい色のボックスがあるから、そこに入れといてあげて。はい、ありがとう。

井上：いいかな。本当はね、この下にも水が流れているの。あそこで渦を巻いているところがあるでしょう。中で。あそこから水が二重になっていて、そこだけ浅くしてあるの。みんなが遊べるように。でもごみだらけだったら遊べるか？

不明（子ども）：ザリガニ釣りに来たよ。

不明（子ども）：何でこんなに白いの？

井上：これね、つくったばかり。人がつくったんだもの。

不明（子ども）：これ、何するの？

井上：何するんだろうね。じゃあ市役所の人に聞いてみよう。原さん。子どもたちがここ、何するのって言っているんですけど。

井上：原さん、え？ 何をする？

原：今日？

井上：違う違う、ここは何をするの？

原：ここは深くて入れないでしょう、用水に。水にさわれないじゃないですか。だからみんながジャブジャブ触れたり、あとは靴を脱いで入っちゃってもいいかなという場所として整備をしました。今日からオープンになるから、本当は今日の夕方6時なんですけどね。

渡辺：特別だ、今日は。

原：ということで今後楽しく使っていただければということになります。

渡辺：はい、ありがとうございました。

清板：上は何？ その上。

井上：あ、それね、今日夕方にオープニングをやるときに、ろうそくをつけるんじゃないですかね。

清板：ああそうですか。

原：まあ多分当たりです。

不明：ここはあれかな、じゃあ。

井上：まだつくりたてだから、生き物も余りいないけども、そのうちいっぱい来るよ。

不明（子ども）：魚がさっきいたよ。

井上：いた？

【お駒止めの松】



お駒止めの松

井上：今来た道、ちょうど車が通っている辺りの問題ですけども、その辺は50年前ぐらいはどんなだったでしょう。

井上：もうバレバレだよ。ということで、どこまで田んぼだったかという、このすぐ下の段、ここからこういうふうに見ると建物しか見えないけども、田んぼしか見えませんでした。ではこれからこの中を突っ切って宝泉寺のほうへ行ってみます。

加地：ついですからお寺の中で、これは、ここで陸軍大演習を行なったのね。そのときに大正天皇は来られませんが、前の昭和天皇が皇太子時代にここに来て、それでそのときにここに馬をとめて、ここから歩いて裏の山の方に。それでここは駒止という。ちょっと場所が違うんですよ。駒止の場所にこの記念につくったということなんです。

【宝泉寺】

加地：馬の顔が乗っているということで

馬頭観音。馬の頭の観音様です。馬頭観音像。で、この馬頭観音さんがなぜ有名かというと、実は昔、ここにこの馬頭観音を一緒に持って来た人がいたんだけど、ここから立とうとするとその馬頭さんが動かなくなった。それで今度はこれを調べて、それでここへ置かせてもらった。でこの、一言、皆さんがいろんな願い、私はこういう、長生きをしたい、またこの病気を治してもらいたいというようなことをお願いして、それでこの観音さんを、実は昔は持ち上げ専門のおばあさんがいたんです。おばあさんがいて、その人に頼んで持ち上げてもらうの。そのときに非常に重くなって持ち上がらないと、残念ながらなかなかその願い事は難しい。簡単に持ち上がるとその人の願いはきいてくれるということで、通称「持ち上げ観音」ということが言われております。



宝泉寺

不明：持ち上げ観音、宝泉寺。いいよ、それでわかったら。

井上：じゃあ、一番小さい子誰？

山田：幼稚園の子がいますよね。

井上：幼稚園の子誰？

不明：手を挙げて。

井上：じゃあ、幼稚園の子ならみんな文句言わないでしょう。お兄さんお姉さんです
から。

不明：こっちから持ちましょうね。かなり力持ちみたいね。

小杉：お願いごとしたほうがいいよ。

山田：お願いごととしてからね。



持ち上げ観音

不明：抱っこするの？

渡辺：写真撮ってください。

不明：持ち上がった？

不明：持ち上がりました。

渡辺：よかった。お願いごとを何か心の
中で、3回。

井上：お願いごとは何ですか。

不明（子ども）：声を出して言っちゃだめだよ、かなわなくなっちゃうよ。

井上：そんなことないよ。声を出して言うとみんなが聞いているから、やらざるを得
なくなるみたいよ。

不明（子ども）：勉強ができるように。

不明：最適な願いだったね。

井上：おうちがお金持ちになるように。宝くじが当たりますようにとか。

【坂下地蔵】

加地：ここにも書いてありますけどね、これは 1713 年ですから約 300 年前。江戸の鋳物師がつくった地蔵さんです。非常にいい出来で、これだけのお顔、その他姿というのは江戸市中をのぞいてもなかなかありませんけれども、ただ、ここでこの人たちがお金を出し合ってつくったということが一つあります。それからついでですからあれですけど、ここに石の地蔵さんと阿弥陀さんがいます。阿弥陀如来と地蔵菩薩、石のね。ところが西の地蔵さんは石の地蔵さんじゃなしに、こっちのお地蔵さんです。これが「坂下地蔵」と呼ばれる「西の地蔵」さんですね。この石仏はそれをお守りするという形で作ったんですけど、実はこっちのほうが古いという形です。よくこういうふうには赤い帽子をかぶっていますね。みんな兄弟の石仏があるよとぜひ守っていききたい石仏です。こちらは延命地蔵さんというんだけどね、鉄でできている。

不明（子ども）：だから西の地蔵はこれ？

加地：そうそう。

不明（子ども）：家があるのは。

加地：銅製というか、銅が日本ではできているんだね。大体日野には石仏としては非常に種類も多いし面白いですね。

井上：みんなちょっとこっち来て。一番でっかいのあるでしょう。首のところを見て。こっちの小さいやつだけ見て。その下です。どうなっているか。ここのところ、新しく塗ったようになっているでしょう。それで、誰かがね、5年ぐらい前。だから200年以上も何もなかったのをわざと誰かが取っちゃったの。誰だかわからないけども、みんなやられちゃったの。

不明（子ども）：こっちもやられたの？

井上：こっちの一番でかいのもよく見ると。

だから、大事にする人もいるけれども、そうやって壊しちゃう人もいる。みんなはどっちなかな。

不明（子ども）：大事にする。

井上：ならいいですよ。

加地：お願いしますね。

井上：じゃあこっちこっち。

不明（子ども）：じゃあ俺もついて行こう。

不明（子ども）：さっきのお寺のところにもああいうハート型のマークがあったよ。

加地：あったよな。

井上：上に上がって。

不明（子ども）：うわ、何これ？



阿弥陀如来と地藏菩薩

【飯綱権現】



飯綱権現前で 加地さん

加地：ここは飯綱（いづな）大権現といいまして、長野県の飯綱、「飯縄」と書く場合もあるんですけど、飯縄さんの神様。これが高尾山の本尊ね。これも飯綱権現なんですよ。これは一つの言い伝えとして、長野の飯綱から高尾の飯綱に来る途中、ここまで飛んできて、途中何回か休んだかもしれないけど、とりあえずここまで飛んできて、それでここで一休みをして、それから高尾へ行ったという

言い伝えがありまして、これは別名「飛び飯縄」という名称があります。戦前はその伝承を信じて、高尾山からここのお祭りのときに、毎年お米2俵かな、3俵かな、が毎年来ていたということがありますので、まんざら嘘じゃないと。ただそういう伝説があり

ます。

ここで皆さんに知ってもらいたいのがこの土台に使ったレンガ。これが日野煉瓦ね。これもあれだということですね。ただ、実は前は、ちょうどこの向かいの、線路を越えた向かいの山の中腹にこの神社があったんですよ。だけどこの中央線が通ったためにこちらのほうに引越しをしたという形で、こちらのほうでお参りができるよということです。だからもうこれは、



日野煉瓦

中央線が通ったときは明治ですから、その前に生まれた人はそのときのことを覚えているということですが、ここへ来ました。ただ、いろんな伝承がありますから。大体仏教とか神道とかというのはいろいろな伝説から成り立っているということで、まあそういう言い伝え。それから昔話というのは、非常に日野には多くあります。それをやっぱり継承していくというのも一つの手だろうけど、それを素直に、ああ、こういう物語もあったんだなと思っていただければ面白いと思いますね。

今日、これだけ集まりましたので、一応これから甲州街道の突き当たり、この道をまっすぐ行って突き当たって右に曲がるんですけど、そこに志村さんというお宅があります。そこで皆さんにまたもう一度冷たいものを飲んでいただこうと思って用意していますので、そこが最終の解散地になりますけれど、解散地というのは、そこから図書館のほうに戻ります。

ですけど、私は多少郷土史というか、石の仏さんのほうが中心なものですから、日野にはそういった、それからそれを、仏さんを伝えた物語という、古い物語もあります。それから「トンガラシ地蔵」も今日、予定をいただこうかなと思ったんですけど、それは目の病を治すよという。あ、そこにあるよな。その中にもあります。だからそういうような形で、昔はよく囲炉裏仕事をしましたから、どうしても目が赤目になってしまう。その赤目を治すという形で、目の病を治してもらおうというので、日野には個人のお宅にも目を治してもらおう、いわゆる「やんめ地蔵」という「やもめ」という地蔵。それから皆さんいろいろと、神社なんかに行きますと「めめめめ」と書いたような紙の、書いたものがあると思いますけど、それを見ることがあると思いますが、それも全部目の病を治してもらおうということの祈願のためのお地蔵さんであり、仏さんだというふうに思っただけければ。そういうような形で、そういう言い伝えとかいっぱいありますから、ぜひ楽しみにしてください。今度のその本の中にも多少取り上げたいと思っています。よろしく願いいたします。

井上：今日は全部回れないんだ、実は。でね、今 12 番のところにいるでしょう。13 番と 14 番は多分ここで問題が、答えがわかるはずなんだ。日野駅ってみんな使ったことあるよね。建物知っているものね。そうすると、読んでくれる？ 13 番。

不明（子ども）：「日野駅の建物は大体 80 年前につくられました。何の形をまねしているのでしょうか。」

井上：問題も読んで。1 番。

不明（子ども）：「1、その頃の普通の家。2、日野宿本陣。3、お金持ちの家。」

井上：はい、答えは。

不明（子ども）：お金持ちの家。

井上：そうか、お金持ちの家な。よしよし。ほかに。

不明（子ども）：日野宿本陣。

井上：日野宿本陣、似てるもんな。ほかに。

不明（子ども）：普通の家といったら相当広いですね。



日野駅看板

井上：この答えは日野駅にね、日野駅の歴史が書いてある板が張ってあるから、それを読んでおいてね。

不明（子ども）：で、答えは？

山田：その板はどこにあるかな？

不明：駅の入り口？

不明：「駅」という字が違うよ。

井上：あと 14 番誰か読んでみて。

不明（子ども）：「用水の上を走る電車、よく見るとレンガの橋です。レンガはどこからやってきた？」

井上：それは答、すぐわかるでしょう。

不明 (子ども) : さっき言ってなかった？

井上 : 日野。

不明 (子ども) : 俺と一緒にだ。

不明 (子ども) : オランダとスペインってワールドカップとか出た？

井上 : そう、ちょうどワールドカップやっているときにこの問題をつくってたんだ。

こりゃいいやと思って。みんなもこの問題見たらワールドカップのことを思い出してね。じゃあね、今度はね。

不明 (子ども) : サッカーは余り興味ないんだけどね。

井上 : じゃあね、八坂神社に行こうと思ったけど暑いからやめて 16 番のところへ行きます。八坂神社の今度のお祭りが 9 月の 18 日か何か、18、19、20 かな。その辺にあってお神輿が出るので。

不明 (子ども) : 18、19、20？

井上 : かな？ 忘れちゃったけど。そのときお神輿見るから、もしわからなかったらそのお神輿を見て考えてね。もう遅いか。じゃあ 16 番のところへ行きましょう。あと、だから 17、18、19、20 は自分たちでやってね。場所が書いてあるからわかるし、お母さんに行こうよと言えば、いやだとは多分言わないし。

不明 (子ども) : 言うよ、普通に言う。

不明 (子ども) : いつも言ってるじゃん。

不明 (子ども) : いやだよ、暑いからって。

井上 : なるほど。

不明 (子ども) : 適当に問題答えていい？

井上 : うん、それでもいいよ。だって答えくれるもの、図書館で。

不明（子ども）：全部書いてあった。

井上：じゃあ行こう、16番。



あまりの暑さのため、予定を変更し「ギャラリー&カフェ大屋」で涼をとったあと、ここで解散となりました。